

みんなのお場

届いたお手紙から みんなのおたより紹介



タクシーの運転手さんに 「ありがとう」

先日、妹が石巻に帰ってきた際、もう一度日和山から東日本大震災後を見ておきたいと、石巻駅前からタクシーに乗りました。また、その後仙石線で松島へ行く予定だったので、タクシー運転手さんの計らい

で、そのまま松島まで送ってもらうことになりました。タクシーの中で運転手さんから、自分は東日本大震災で家がなくなり、今は高台に中古の家を買って住んでいるという話を聞きまし

た。さらにお話をしていると、運転手さんは気さくな印象の方で、30年間消防士として働いていたことや悲しかったこと、心が温まるようなお話もしてくださり、私たちは感激しました。松島に到着してお別れをしたのですが、その時、運転手さんが目頭を拭き、少し泣いているようにも見えました。車内で貴重なお話をしてくれ、あの時の運転手さん本当にありがとうございました。お体に気を付けて頑張ってください。日常生活の中でも「ありがとう」という言葉は大変素敵な言葉だと思います。私も素直に心から感謝の気持ちを持って「ありがとう」と言えるようなパーパーでありたいと願っています。

(阿部トシコ)

文化財たんぽう 73

震災と信仰

石巻市文化財保護委員

千葉 松一郎

東日本大震災から3年目の秋を迎えたが、旧雄勝町は半島先端の集落、大須・熊沢・羽坂・桑浜・荒と雄勝の原地区を除く全域で壊滅的な被害を受け荒涼と化した。その被害は、死者61名(行方不明者75名)、流失家屋1,304戸にもおよび、明治29年・昭和8年の海嘯被害をはるかに上回る惨状を呈し、末代まで語り継がれることになった。

旧雄勝町には、豊かな風土に恵まれた歴史があり、多数の文化財(今回の震災で全滅に近い流失)があった。私はその中でも仕事柄一つのまにか石造物に興味を持つようになった。私たちの遠い近い、ご先祖たちは山道や村境・追分・峠・辻等にわずかな浄財を出し合っただけなのに石仏や石塔を祀って、日々の暮らしのあらゆる願いを掛けてきた。私は、特に野の花を供え、よだれかけをした地蔵尊を目にするたびに立ち止り、遠い日のその造立

した方々の切なる思いを感じる時がある。地蔵信仰が民間に定着したのは、室町時代から江戸時代にかけて、特に江戸時代に入ると庶民の間に観音や地蔵の進出が行われ、多種の石仏等が造立されている。これは庶民の日常的な暮らしを支えるものであった。そして、漁村は信仰が厚い。まして女性は信仰心が深いという...

昭和8年の三陸大海嘯の際、震嘯記念事業として県より指定された義捐金は、震嘯災害記念館建設と記念碑建設費として、当時被害の大きかった4地区、名振・船越・荒・雄勝に配分された。そして、「地震があったら津波の用心」の記念碑を建立して地区民に不断の警告を与えて来た。「神も仏も」あるのか? 亡くなった人々を悼み、地区や家々に災いが再び降りかからぬことを念じ、津波が来た先に「波しるべ」の石像や地蔵尊等を造立する等し、後世に伝える責務は私たちにもあるだろう...



100歳の誕生日を迎えた日は、「たくさんの方々にお祝いでいただき感謝の気持ちでいっぱいです」と笑顔で話してくれました。健康の秘訣は、「よくよしなこと、笑うこと」だそうです。

鈴木 はなこさん 100歳 (牡鹿地区・鮎川浜)



いつもみんなを笑顔に



鈴木はなこさん(中央)

鈴木はなこさんは大正2年6月23日に4人姉妹の次女として鮎川浜に生まれました。21歳で、同じ鮎川浜の鈴木節さんと結婚し、2人の男の子に恵まれました。料理やおしゃべりをするのが大好きで、長年にわたり民宿を営んできました。震災後は施設に入所して

いますが、鈴木さんは「津波で家が流されて、家族と一緒に暮らせないのは寂しいですが、皆さんに本当に良くしていただいて幸せです」と感謝の言葉を述べて

◆投稿募集

皆さんからの投稿をお待ちしています。テーマに沿ったあなたのとおきの話をお寄せください。

テーマ 「ありがとう」

日常生活の中で、皆さんの「ありがとう」に関する逸話(エピソード)をお聞かせください。

字数 400字以内

投稿方法 住所、氏名、年齢、電話番号を明記し郵送またはEメールで秘書広報課までお送りください。掲載の場合はペンネームを可能としますので、ペンネーム希望の場合はその旨明記してください。

注意事項 公序良俗に反するもの等やスペースの関係上、投稿いただいたものを掲載できるものではありません。また、字数等の関係で内容を調整させていただくことがあります。

問 秘書広報課(内線4024) 〒986-8501(住所不要) Eメール ispubinfo@city.ishinomaki.lg.jp

まちの話題



8月25日(日) 中心部商店街の各会場

石巻地区 まちに響く豊かな音色

今年で10年目となった音楽の祭典「トリコロレ音楽祭2013」が石巻駅前にぎわい交流広場をメイン会場に11カ所で行われました。市内外で活動する111組700人以上が出演し、ロック、ポップス、ジャズ等多彩な音色で観客を楽しませました。同時に開催された食のイベント「ボンパールいしのみきV」にも大勢の人たちが参加し、復興に向かう商店街を活気づけていました。

石巻地区

8月31日(土)~9月1日(日)

石巻港雲雀野埠頭

震災後初めての 港湾感謝祭



震災後初めてとなる第11回港湾感謝祭では、海上自衛隊の砕氷艦「しらせ」が石巻港に初寄港しました。「しらせ」は物資や人員輸送、南極観測支援等を行う国内唯一の艦船です。港湾感謝祭では艦内が一般公開され、操舵室が人気を集めました。また南極の氷や石、防寒服の展示もあり、多くの人が関心を高めていました。岸壁では石巻港の復旧復興をアピールするPRコーナーも設けられました。